

PR35831

☆共 JBN 外0812 (産業、気象観測) (09・8・31)

【産業担当デスク殿】35831

◎世界の落雷情報サービス開始

ヴァイサラ社が発表

【ジュネーブ31日PRN=共同JBN】フィンランドの計測専門企業のヴァイサラは、世界の気象観測機関とその他天候に依存するユーザー向けサービスとして世界の落雷情報データセットを提供する。

ヴァイサラのグローバル・ライトニング・データセット (GLD360) は世界中に配備される落雷センサーで構成されており、そのカバー範囲と性能はユニークかつ世界的規模でリアルタイムである。GLD360は一元化された世界的カバーを実現し急速に変化する厳しい気象状況に関する最もタイムリーな情報を提供することから、気象衛星による落雷探知性能を上回る。このネットワークは地表に落下するすべての落雷の3分の2以上を探知し、雷雲から地表までの落雷事象の最大電流情報を提供する。このデータセットはさらに、リアルタイムの気象観測能力が不足する海洋地域での情報も提供する。

ヴァイサラのキエル・フォルセン社長兼最高経営責任者 (CEO) は「われわれは北米の雷雨予報システムに20年余りの経験があり、今回は当社顧客に世界的規模でサービスを展開するデータ・ソリューションの開始を非常に喜んでいる」と語った。

ヴァイサラのGLD360の潜在的なアプリケーション分野は、雷雨の特定、水分地質学、ハリケーン予知から津波検出と気象変化調査まで多岐にわたる。さらに航空路や海上航路は改善される落雷データ提供の恩恵を受ける。

ハワイ大学のスティーブン・バシンジャー博士は「われわれは過去5年にわたり、落雷データを中規模気象モデルに取り入れることが短期から中期の気象予報を向上させることを実証してきた。GLD360の優れたカバー範囲と性能は、特にデータが少ない海洋地域について、世界的規模で総観的かつ中規模気象予報を向上するユニークな機会を提供する」と語った。

GLD360はスタンフォード大学との研究協力の結果である。環境計測におけるヴァイサラの有力な専門知識は可能な最高の技術的ノウハウと結合して、このリアルタイムで世界的なネットワークを現実のものにした。

スタンフォード大学のライアン・サイド博士は「この共同による科学的、技術的イノベーションが、気象観測コミュニティだけでなく気象変化研究など世界の異なる分野の多数かつさまざまなユーザーに恩恵となるのを見るのは嬉しい」と語った。

ヴァイサラは、スイスのジュネーブで開かれる世界気象会議と関連して、8月31日午後2時 (中部欧州時間) にGLD360についてウェブ (<http://www.vaisala.magneetto.net>) 上の記者ブリーフィングを用意する。

▽ヴァイサラ (Vaisala) について

ヴァイサラは環境および産業計測での世界リーダーである。ヴァイサラは70年間の経験を生かして、気象、天候に左右される業務と管理環境向けの包括的な最新の観測・計測

製品とサービスを提供してより良い生活の質に貢献する。同社はフィンランドに本社があり、世界中に1200人余りの専門家を雇用している。同社株式はヘルシンキにあるNASDAQ・OMXに上場している。詳細は<http://www.vaisala.com>を参照。
(了)

▽問い合わせ先

Martti Husu

Executive Vice President, Meteorology

Tel. +358-40-5483-423

Helena Marjaranta

Senior Vice President, Communications

Tel. +358-40-581-9102